

科目名	両眼視機能治療学講義			分野・必選別・単位数	専門科目	必修	2単位
担当教員	◎教授 松岡久美子						
課程	博士前期	配当年次	1年	配当学期	通年	授業方法	講義
授業の概要	両眼視機能治療の基本となる、眼位治療が説明できる。						
授業の到達目標	<p>眼位治療には、屈折矯正、プリズム矯正、視能矯正、ボツリヌス毒素を初めとする薬物治療、斜視手術がある。</p> <p>①屈折矯正は眼鏡およびコンタクトレンズ処方、プリズム矯正は眼鏡処方を習熟することを目的とし、薬物治療についてはその効果を検討できる。</p> <p>②視能矯正は網膜対応異常の矯正訓練、抑制除去訓練、融像訓練、立体視訓練、単眼固視訓練があるが、これらの方法が真に効果があるか否かを調査する。ここでは斜視治療のうち非観血的治療の知識を有し、眼位治療について実際の症例に即して最適な治療方針を選択できる。</p>						
授業計画	回数	担当者		行動目標			
	1	松岡久美子	教授	屈折矯正 眼鏡・CL処方ができる。			
	2	松岡久美子	教授	屈折矯正 眼鏡・CL処方ができる。			
	3	松岡久美子	教授	屈折矯正 眼鏡・CL処方ができる。			
	4	松岡久美子	教授	屈折矯正 眼鏡・CL処方ができる。			
	5	松岡久美子	教授	プリズム プリズム眼鏡処方ができる。			
	6	松岡久美子	教授	プリズム プリズム眼鏡処方ができる。			
	7	松岡久美子	教授	プリズム プリズム眼鏡処方ができる。			
	8	松岡久美子	教授	プリズム プリズム眼鏡処方ができる。			
	9	松岡久美子	教授	薬物治療 薬物治療の効果判定ができる。			
	10	松岡久美子	教授	薬物治療 薬物治療の効果判定ができる。			
	11	松岡久美子	教授	薬物治療 薬物治療の効果判定ができる。			
	12	松岡久美子	教授	視能矯正 訓練の適応判定ができる。			
	13	松岡久美子	教授	視能矯正 訓練の適応判定ができる。			
	14	松岡久美子	教授	視能矯正 訓練の適応判定ができる。			
15	松岡久美子	教授	視能矯正 訓練の適応判定ができる。				
事前事後学修の内容およびそれに必要な時間	【事前学修】	指定したテキストの次回授業部分を事前に読んでおくこと。 回次の授業内容を予習し、用語の意味等を理解しておくこと。					
	【事後学修】	授業中の疑問点を、質問したり、ノートや配布資料、教科書等を利用し、次回授業までに解決しておくこと。					
	【必要時間】	当該期間に30時間以上の予復習が必要。					
教科書	丸尾敏夫 他 編:視能学 第2版. 文光堂、2011年 丸尾敏夫 編:眼科プラクティス 29、これでいいのだ斜視診療. 文光堂、2009年 その他、その都度指定する。						
参考書							
成績評価の方法および基準	レポート50%、口頭試問50% 欠席・遅刻・早退は減点の対象となる。1回欠席につき5点を減点する。遅刻・早退は3回で欠席1回とみなす。						
その他履修上の注意事項	試験やレポート等に対し、講義の中での解説等のフィードバックを行う。 この科目と学位授与方針との関連をカリキュラムマップを参照し理解すること。 (ディプロマ・ポリシー2に相当する)						